



だより

— つながれ ひろがれ —

第133号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

TEL : 090-8116-4633
E-mail : info@kanpachiba.com
<https://kanpachiba.com/>

2020年度スタートします

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば
代表理事 桑波田 和子

若葉が美しい季節となり、自然界では生き物たちが活発に活動しています。1月末に見られたニホンアカガエルの卵塊は、今では足が生え、小ガエルたちの姿が見受けられるようになりました。ところが、私たち人間社会では、季節の変化を気に留める暇もなく、2月頃から、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、これまで予定していた活動などことごとく中止せざるを得ない状況が続き、現在に至っております。

現在、緊急事態宣言は解除されましたが、アフターコロナ社会をつくるために、「新しい生活様式」も提示されました。新型コロナウイルスを正しく恐れ、対応する術をこれからの活動に取り入れること等、課題は山積みです。

世界規模での感染症は、これまでの暮らし方、社会、経済、環境などについて、これまで以上に

私たちがつながっていることを再認識したことでした。今こそ、SDGsの取り組みを真摯に取り入れ、活動していくことの重要性を感じています。

当会の2020年度事業は、6月13日の第3回通常総会で承認を受け、昨年の継続事業として、「SDGsを達成するためのESD人材育成事業」を主に、「エコメッセ2020inちば」「環境講座」など、安全に実行できることを模索・検討し、実施していきます。

皆さまの安全第一で活躍されることを祈念しております。併せて皆さまのご支援とご協力もよろしくお願いいたします。



挨拶

千葉県循環型社会推進課 副課長 針谷 謙一

「環境パートナーシップちば」の皆様におかれましては、日頃より、千葉県の環境行政の推進に多方面から御協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

また、今年で25回目を迎えるエコメッセにつきましては、実行委員会事務局として長年多大なる御尽力をいただき、改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、県では、これまで「千葉県環境学習基本方針」に基づき各種環境学習施策を展開してまいりましたが、現在、これに代わる「(仮称)千葉県環境学習等行動計画」の策定に向けた作業を進めております。本計画では、現行の基本方針の考え方を踏襲しつつ、第3次千葉県環境基本計画や国の基本方針、SDGsなどを踏まえた構成を考えており、時代の要請に合わせた内容へ見直すこと

で更なる環境学習等の推進を目指しております。

環境学習は地域特性に応じたアプローチが必要であり、地域の各主体による連携体制の構築や協働の推進が不可欠です。多様な主体を繋ぎ、環境保全活動の担い手育成を目指す皆様の取組は、本県の環境学習を支える重要な活動だと考えています。県としても、環境学習の取組をより一層進めていきたいと考えておりますので、今後とも御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、「環境パートナーシップちば」のますますの御発展と、皆様の御健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



「SDGsを進めるESDプラットフォーム」について思うこと

NPO 法人千葉自然学校理事長 久保田康雄

2020年2月3日 第3回SDGsを進めるESDプラットフォームづくりのワークショップが開催されました。ファシリテーターの石井雅章氏の進行で、私たち参加者は、ESDプラットフォームについて、おぼろげながら、そのイメージをつかむことができました。

ESDプラットフォームの「ミッション」は、持続可能な社会の実現を目指して、それぞれの課題を解決する場をつくること。「機能」としては、学びの機会や場をコーディネートすること。その「条件」は、人、モノ、金、場、情報を整えること。「運営」については、メンバーが営業所的な役割を果たすこと。などでありました。

さて、以上の成果を踏まえて、3年目を迎える本ワークショップについて、私的ではありますが意見を述べさせていただきます。

目標を、

- ①ESDプラットフォームの実験的運用を始める。
- ②実験プロジェクトの成果を確認する。
- ③プロジェクトの恒常化を図る。

の3点とし、以下のステップを進めたらいいかなと考えました。

1. ESDプラットフォームの具体的な事業（プロジェクト）像を描くこと。
2. 期限を決めた実験プロジェクトを数本計画すること。
3. これまでワークショップに参加しているメンバーが実験プロジェクトにコミットし、役割を担うこと。
4. 実験プロジェクト進行中、成果や課題についてふりかえりを行い、進行中のプロジェクトに生かし、より精度の高いプロジェクトにすること。

5. 実験プロジェクトを恒常的なプロジェクトに変えるための仕組みを考えること。（これが本当は一番大切）
6. 将来、恒常的なプロジェクトの成果を適切な機関や組織に、適切なタイミングで発信すること。

実験プロジェクトの例としては、次のようなものが考えられます。

- 例1 プログラムマッチング&営業プロジェクト：ESDプログラムガイドブック2019にあるプログラムと実施する団体やグループをつなぐ。
- 例2 指導者バンク&マッチングプロジェクト：千葉県のESDの指導者バンクの構築および利用者と団体をマッチングする。
- 例3 アワードプロジェクト：優れた取り組みを紹介するサイトを作り、優れた取り組みに対しては1年間ごとに表彰をする。
- 例4 経営応援プロジェクト：ESD関連の補助金や助成金や申請方法をまとめたサイトを作成し、助言および支援する。



『田んぼと里山と生物多様性』が冊子になりました

房総野生生物研究所 手塚幸夫

2018年度のSDGs達成のためのESD担い手育成事業の「ESDプログラムガイドブック」で紹介させてもらった『田んぼと里山と生物多様性』が冊子になりました。

このプログラムはいすみ市立夷隅小学校5年生の総合学習で実施されてきたもので、学校給食で

食べている有機米の紹介と里山と生物多様性の話に始まり、田植え～田んぼの生き物調査～稲刈り～脱穀・選別などの体験と続き、まとめとして伝統的な農業や暮らし、地産地消とフードマイレージ、里山の自然管理と生物、里山と里海のつながりの学習で結ばれています。

授業は、いすみ市農林課と房総野生生物研究所が担っていますが、街づくりNPOのいすみライフスタイル研究所（以下、いう研と略）が協働・サポートしてくれています。特に、今回の冊子作りはいう研の資金と人的な援助を受けて作られていて、そのPDFデータはいう研のHP上の下記URLからダウンロードできます。ぜひともご覧ください。

新型コロナウイルスの影響で、今年度の授業は始まっていませんが、冊子についてはいすみ市内の小学校児童（高学年生全員）と教師に配布することができおり、複数の小学校では導入を検討してくれています。さらに、現在韓国語版の制作が進んでおり、韓国の関係団体・機関への配布と食育と環境学習を一体化したESDプログラムに関する意見交換の場作りなども模索されています。



<http://www.isumi-style.com/blog/?p=23324>

コロナに思う

元 気象庁職員・日本防災士会防災士 矢野良明

新型コロナウイルスの感染拡大で、その怖さ・影響力について多くのことに気づき、また考えさせられました。皆様も同様ではないでしょうか。

ウイルス感染について、25年にわたりアフリカ・アジア・中南米でエイズ対策に取り組んできた長崎大学熱帯医学研究所の山本太郎教授がこのような解説をなさっていました。

熱帯雨林などの乱開発は、地球温暖化の一因にもなるが、野生動物の生息域を減少させ、結果として野生生物と人との距離を縮める。野生生物と調和・共存しているウイルスの環境が乱され、人間社会に入り込んでくることも増えている。

また、人口が増加している現代社会は、生活の利便性などから都市への密集が起き、グローバルな高速交通網が整備されていることから、感染拡大によって生き延びようとするウイルスにとっては好都合な条件が揃っている。正に現代社会であるからこそ、今回のパンデミックは起きた、との

ことです。

私たちが築き上げてきた社会は、これまでに経験したことがないウイルス禍などで、大きく動揺し、多くの問題点が噴出、数多くの課題が突き付けられたと思います。一方、感染拡大で経済活動が縮小したことから、皮肉にも、二酸化炭素や大気汚染物質の排出量が減少し、環境へのプラス効果をもたらしているようです。どれだけの効果があったのか、数値的に示されるのを、興味をもって待っています。

今回のパンデミックは、自然界が、自然と環境を粗末にして驕（た）り高ぶっている人類への一つの警告かもしれません。今後しばらくはこれまでの生活・社会を再生するための大きな努力が課せられますが、第2波が来ることがないように祈るとともに、少しでもより良い持続可能で進歩した社会となるよう願っています。



「エコmesse 2020in ちば」出展募集が始まりました

持続可能な社会の実現を目標に 1996 年から開催され、今年 25 回目となる環境イベントです。

テーマ：「SDGs(エス・ディー・ジーズ)暮らし方変革」

2030 年ゴールにむけて具体的な取り組みを始めよう!! みんなで 2030 年を迎えられるように、ひとりひとりができることからを見つけ、取り組んでみよう!!

目標：持続可能な社会の実現をめざして、市民・企業・学校・行政による連携・協働の取り組みを促進し、活動の普及・啓発及び団体同士の交流の場とする。

会期：2020 年 11 月 1 日(日) 10:00~16:00

会場：幕張メッセ国際会議場（千葉市美浜区中瀬 2-1）

主催：エコmesseちば実行委員会

募集概要：

募集区画：200 区画、広さ：1 区画（2m×2m）単位でお申込みを受けます。

応募締め切り：8 月 20 日（木）

出展料：

	早期申込み料金（7/20 まで）	通常料金（7/21~8/20）
企業・行政	18,000 円/1 区画	20,000 円/1 区画
市民団体・大学	7,000 円/1 区画	8,000 円/1 区画
高校・学生団体	1 区画まで無料、2 区画目から 7,000 円	1 区画まで無料、2 区画目から 8,000 円

*電気使用の場合は、出展料とは別に使用料がかかります。

キャンセル：10 月 1 日(金)以降はキャンセル料 100%が発生し、返金はできません。

ただし、やむを得ず主催者が中止を判断した場合、お振込みいただいた出展費用は返金致します。

詳細・お申し込みについては、ホームページを参照ください。 <https://www.ecomesse.com/>

問合せ先:事務局 080-5374-0019 E-Mail: entry@ecomesse.co

特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば（NPO環パちば） 第 3 回通常総会ご案内

第3回通常総会は、新型コロナウイルス感染症防止のため、当初の予定を延期して以下の日程で開催いたします。正会員の皆様には、すでに総会議案書など送付いたしておりますので、ご対応よろしくお願いたします。

開催日時 2020年6月13日（土） 14:00~

開催場所 千葉市民活動センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1）

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台 21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel : 090-8116-4633

E-mail: info@kanpachiba.com

<https://kanpachiba.com/>

※会費や会員申し込みなどの情報は上記 HP でご確認ください。